

うーたの会

うーたの会は、平成23年から大分県大分市で活動している団体です。地域のコミュニティ再生と自然体験・森林体験を通して、子どもの健全育成を目的にした「うーたの里山林再生」を基盤に活動しています。

里山を核にしたふれあいの場づくり

失われつつある里山の再生を目指して

「うーたの会」が活動しているのは、大分県大分市横尾地区にある里山「うーたの里」。「うーた」とは、「大田おおたの地名がなまった呼び名です。

同地は、約40年前から離農などにより水田が休耕田化するとともに、最近では宅地化が進み、里山の環境が失われつつあります。このため、会では「うーたの水は豊後の海へそそぐ」を合い言葉に、「うーた」の里山再生プロジェクト活動を進めてきました。

活動のねらいは、
○自然体験による子どもたちの知・徳・体の発達

- 地域のつながりの促進
- 森林機能再生による地球温暖化防止
- 生物多様性保全(生き物の生息環境の保全)

里山林の保全と再生

うーたの会で行っている里山再生プロジェクト活動の柱のひとつは、里山林の環境整備です。会では、竹林の伐採や草刈り作業をはじめ、ホタルが育つ水辺や沢の環境保全、自然観察道の整備等、自然環境の保全や自然体験のための環境整備を行っています。

①竹林の整備

里山周辺の竹林の伐採や奥地の草刈り等の整備活動を行っています。竹の伐採後はクヌギ苗

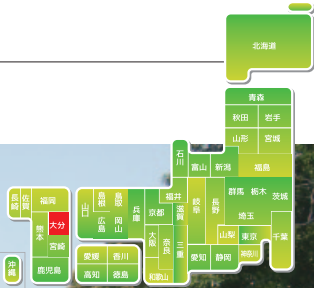


ホタルの幼虫放流体験



中学生による竹林の整備活動

協働で行われている「うーたの会」の活動の参加者



うーたの会

- 会員数
35人(平成25年10月現在)
- 活動フィールド
大分県大分市横尾大田「うーたの里」
- 活動日
奇数月の第3土曜日
- ホームページ
<http://genki365.net/gnko06/mypage/index.php?gid=G0000205>



モウソウチク 孟宗竹林の整備



里山に飛来するアサギマダラ



自然観察のための遊歩木道



「うーたの里」のビオトープと生き物たち



絶滅危惧種の植物「ハンゲショウ」

うーた子どもワールド づくりと子どもたちの育成

里山再生プロジェクト活動のもうひとつの柱は、自然体験・森林体験を通じた子どもたちの健全育成です。会では、うーたの里の自然環境を利用したイベントや、ボランティア活動体験を行っています。

① ふくろの森づくり
小学生たちが作ったふくろうの土器を「ふくろの森」に設置しています。

② 縄文の里山体験
国指定史跡「横尾貝塚遺跡」の近隣という立地を活かして、縄文時代のくらしを再現する様々な実験と子どもたちの縄文体験イベントを首都大学東京と大分市文化財課と協力して行っています。昨年は縄文時代のカズラカゴの復元に成功しました。

③ 周辺住民・中高生の活動参加
活動には、周辺住民をはじめ、近隣の中高生が参加しています。また、大学生もボランティア活動を体験する場として活用しています。

④ 生物多様性の保全
春の北上、秋の南下を繰り返す「渡り」をするチョウとして知られているアサギマダラの飛来を誘致するため、食草のフジバカマを育成しているほか、絶滅危惧種(大分県など選定)の植物「ハンゲショウ」の群生地保護や、ビオトープづくり等の生息環境の保全を行っています。フジバカマ畑には昨年初めてアサギマダラの飛来が確認され、ビオトープには、夏には多くの種類のトンボが舞い、産卵する環境への再生が進んでいます。また絶滅危惧種(環境省など選定)のオオイトサンショウウオの生息に向けた試みをしています。

広がり、深まる活動

うーたの会では、発足からの4年間の成果を踏まえ、今年度から新たに「うーた新3か年プロジェクト(うーたN3P)」活動を進めています。

その主なテーマは、①真竹林の大規模な整備、②子どもと地域との共生のフィールドづくり、③自然体験と環境教育の充実と定着です。

この新プロジェクトでは、観察山道「うーたの小径」の整備、社会人と中高大学生の世代間交流を通じた環境教育を目的とした「うーた自然塾」の設立、「うーた生き物・植物図鑑」の制作を行っていくほか、縄文生活が体験できる空間の創造にも取り組むことを計画しています。

里山を核にした会の活動は、今後さらなる展開を目指しています。

の植樹を行い、里山環境の再生に努めています。

② ホタルが育つ水辺や沢の環境保全
沢の水辺環境の整備を行い、小学生によるホタルの幼虫放流をしています。夏にはおよそ1,200匹のホタルが飛翔し、多くの人が鑑賞に訪れるようになりました。

③ 自然観察道の整備
里山内に自然観察道を設置し、里山の奥まで自然観察ができるように整備を行っています。